

音楽科学習指導案

日時 令和2年5月28日(木)4校時
場所 附属中学校音楽室
対象 1年5組 36人
指導者 教諭 遠矢圭祐

1 題材 「音楽の要素と曲想との関わりに気を付けて聴こう。」

2 音楽科と学校教育目標とのつながり

知識及び技能	音楽の多様性を理解し、音楽のよさや美しさを味わうための知識と、創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付けるようにする。
思考力, 判断力, 表現力	他者とよりよく協働しながら、音楽のよさや美しさが伝わる音楽表現を創意工夫したり、音楽のよさや美しさを味わって聴いたりするための必要な力を育成する。
学びに向かう力, 人間性等	自分や他者の表現や聴き方を尊重し、音楽の有効性を感じながら、生活や社会の中の音楽、音楽文化と感性豊かに関わっていこうとする態度を養う。

本題材は、「春」を教材とした鑑賞の学習を行う。「知識及び技能」においては、「ソネット」と呼ばれる詩を手がかりに、曲の中で用いられている音楽表現について考え、その特徴と効果を捉えさせる学習を通して、音楽の多様性を理解させることで物事の本質を追究するための知識・技能を身に付けるようにする。「思考力, 判断力, 表現力」では、音楽を形づくっている要素やそれらの関わりによって生まれる音楽表現の工夫をまず個人で聴き取り、次にグループで話し合うことで、音楽の見方・考え方を広げさせ、音楽の良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。この活動を通し、音楽活動に取り組む姿勢や知識・技能を効果的に活用し、他者と共有する力を養うようにする。「学びに向かう力, 人間性等」では、楽曲に親しみ、楽曲のよさや美しさが伝わる紹介文をまとめ、他者に伝える活動を通して、自分と他者との理解を深め、学校生活における歌唱活動の更なる充実を目指すとともに、根拠を持って楽曲を鑑賞する活動等を通して、考えを深め、活動に対し積極的に参加していく態度を養うようにする。上記内容を踏まえて、学校教育目標の達成を目指す。

3 指導目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりを理解し、作曲の背景などとの関わりについて関心を持たせ、それらがどのように音楽で表現されているのかを知覚させ、音楽の多様性を理解させる。 【知識及び技能】
- (2) 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら作曲者の意図を読み解き、曲や演奏に対する評価とその根拠を考えさせる。 【思考力, 判断力, 表現力等】
- (3) 主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組み、音楽文化に親しむとともに、音楽に親しんでいく態度を養う。 【学びに向かう力, 人間性等】

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解している。	思 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	態 音楽の雰囲気の移り変わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。

5 教材

春 —第1楽章— (「和声と創意の試み」第1集「四季」) から 作曲：A. ヴィヴァルディ

6 題材について

(1) 題材設定の理由

様々なジャンルの音楽で溢れる現代社会において、歴史的価値の高い芸術作品と触れることで様々な音楽に興味を持ち、尊重したりできるようになることが必要だと考える。そして、音楽作品の中にも、当時の時代背景が描かれており、それらが巧みに表現されていることを理解し、美しさを味わう学習を通して、音楽の多様性を認め、音楽文化についての理解を深めていき、これからの生活の中に音楽を取り入れていくきっかけとしたい。

本題材で取り扱う学習指導要領の内容は以下の通りである。

- B 鑑賞** (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることが出来るよう指導する。
- ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。
 - (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠
 - (イ) 生活や社会における音楽の意味や役割
 - (ウ) 音楽表現の共通性や固有性
 - イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
 - (ア) 曲想と音楽の構造との関わり
 - (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり
 - (ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性
- 〔共通事項〕 (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項が身に付けることができるよう指導する。
- ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。
 - イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。

また、内容の取り扱いについて配慮することとして、次の事項が示されている。

(1) イ 音楽表現に対する思いや意図、音楽に対する評価などを伝え合い、共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけられるよう指導を工夫すること。

(8) イ 第1学年では言葉で説明したり、第2学年及び第3学年では批評したりする活動を取り入れ、曲や演奏に対する評価やその根拠を明らかに出来るよう指導を工夫すること。

以上のことから、楽曲における特徴や他の音楽との共通性などを考えながら、音楽の多様性を理解し、音楽のよさや美しさを味わい、他者にそのよさが伝わるように説明する本題材は、音楽科の目指す内容を踏襲するものとする。

(2) 教材について

「四季」はソネットと呼ばれる14行からなる詩に基づいてつくられた、独奏ヴァイオリン、弦楽合奏、通奏低音のための協奏曲であり。作曲者であるヴィヴァルディが生まれたイタリアは、日本と同様に国土が南北に長いので、比較的四季がはっきりしているところであると言われている。ヴィヴァルディの協奏曲は、活気あふれる推進力、明快な構成、印象的で表情豊かな主題を特徴としている。一般的に3楽章からなり、速いテンポの第1楽章と第3楽章ではリトルネッロ形式が用いられている。つまりトゥッティ（合奏）とソロ（独奏）が交互に演奏される形である。また対照的に2楽章では、ゆっくりとしたテンポ設定で、美しい旋律や和音の響きを感じ取ることができる。これからの学校生活においてタンホイザー行進曲をはじめ、数多くの音楽作品に取り組んでいくこととなる。取り組む上で、その楽曲に関する知識や理解を深めるきっかけを作れるように指導していきたいと考える。

(3) 指導に当たって

鑑賞領域の学習では、音楽によって喚起されたイメージや感情などを、自分なりに言葉で言い表したり書き表したりして音楽を評価するなどの能動的な活動によって成立するということを念頭において学習を展開していきたい。音楽のよさや美しさなどについて、言葉で表現し他者と伝え合い、論じ合うことが音楽科における批評であるため、批評に関する学習活動の充実を図りたい。そのために、鑑賞のポイント等を具体的に示していこうと考える。

また、本題材を扱うに当たり、次のようなことに留意して学習を進めていきたい。

ア 「音楽の魅力の3つの観点」を楽曲の特徴や音楽表現の工夫を聴き取る場面に活用し、音楽の知識を習得させるとともに、音楽の見方・考え方を広げさせたい。

イ 奏者の異なる演奏を鑑賞することにより、表現の工夫の仕方について多様性の存在を認知させ、それらの工夫が演奏効果に大きな影響を与えていることに気付かせる。これらの活動を通し、音楽に対する興味・関心を高めさせるとともに、豊かな音楽表現を感じ取らせ、楽曲のよさや美しさをより深く味わわせたい。

ウ グループでの話し合い活動を通し、他者とともに音楽を共有する喜びを感じさせるとともに、他者の考えに共感する力と自分なりの音楽の価値に気付く力を養いたい。

エ ワークシートを工夫することで、個人の支援や指導の改善に生かせるようにしたい。

7 指導計画(全3時間)

時	主な学習活動	単位時間における評価規準		
		知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
1	1 鑑賞し、初発の感想を記録する。 2 協奏曲について学習する。 3 楽曲及び作曲家、弦楽器などの音楽的基礎知識について学習する。	協奏曲の特徴や演奏形態について理解している。 共通事項を踏まえたテクスチャ等の基礎知識を理解している。		協奏曲に関心を持ち、音楽の特徴を学ぶ学習活動に主体的・協働的に取り組んでいる。
2 (本時)	1 ソネットについて確認する。 2 ソネットを踏まえた作曲家の工夫について考える。(3つの魅力の活用) 3 グループごとに作曲家の工夫について意見交換をする。(他者との共有)	ソネット(詩)と楽曲を関連付けて理解している。	音色や旋律、テクスチャ唐の音楽を形づくっている要素を知覚・感受しながら、それらと曲想との関わりを味わって聴いている。 楽曲(音・譜面)から読み取れる魅力を、自分たちの言葉でまとめることができる。	音楽を形づくっている要素と曲想との関わりについて関心を持ち、楽曲の魅力を探求する学習に主体的に取り組んでいる。
3	1 紹介文を作成し、発表する。 2 紹介文をもとに、作曲家の工夫がどのような演奏効果をもたらしているか考える。 3 再度、楽曲を鑑賞し、初発の感想と比較しながら、作曲家の工夫と演奏効果について確認する。	演奏効果について考えることで、表現技法について理解している。 標題音楽のよさを感じ取っている。	楽曲の中に施されている様々な工夫について、音として感受し、そのよさや美しさを味わいながら聴きとることができ	楽曲の演奏を通して、音楽の魅力が様々なところに隠されていると感じ取ろうとしている。

8 授業設計上の工夫

(1) 楽曲分析のための「音楽の魅力の3つの観点」の活用

「音楽の魅力の3つの観点」を楽曲や音楽表現の工夫を聴き取る場面に活用し、音楽の見方・考え方を広げさせたい。

(2) 複数の鑑賞音源の活用

今回は2団体の鑑賞音源を活用することにより、同一の楽譜であっても演奏者により表現が異なることに気付かせるとともに、そこに音楽の魅力が隠れていることに気付かせたい。また、2つを比較することにより、根拠を持って音楽鑑賞を行う場面において、自らの意見を構築する際のヒントとして扱えるように促していきたい。

9 本時の実際

(1) 本時の指導目標

- ア ソネットについて学習し、楽曲とのつながりについて理解させる。 【知識及び技能】
- イ ソネットが楽曲の中でどのように表現されているかを知覚し、作曲家の工夫を読み解くことで楽曲の理解を深め、音楽表現の多様性を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】
- ウ 主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組み、音楽文化に親しむとともに、自分の言葉で楽曲の表現について述べる学習に取り組みさせる。 【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 ソネットについて学習し、楽曲とのつながりについて理解している。	思 ソネットが楽曲の中でどのように表現されているか知覚し、作曲者の工夫を読み解いて楽曲に対する理解を深めている。 音楽表現の多様性を理解している。	態 主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組み、音楽文化に親しんで、自分の言葉で楽曲の表現について述べるができる。

(3) 本時の展開(2/3)

過程	時間	主な学習活動	形態	指導上の注意点(◆は評価の観点)
導入 10分	5分	1 前時の学習を振り返る。 【活動①】	一斉	1 前時の学習を振り返る。 ・ ワークシート①を配布。 ・ DVDを鑑賞し、気付いたことのメモをとる。
	5分	2 本時の学習課題と学習の流れを把握する。 ソネットが楽曲の中でどのように表現されているか考えよう。	一斉	2 本時の学習課題と学習の流れを理解させる。 ○ ソネット(A~E)を音で表現するためにどのような工夫が施されているのかを考えさせる。 ・ 紹介文を自分の言葉で作成することが表現につながることを知らせる。
展開 34分	4分	3 ソネットについて確認する。	一斉	3 ソネットの特徴と内容を理解させる。 ・ 楽譜(総譜)の見方についても確認(復習)する。
	15分	4 ソネットがどのように楽譜・演奏に取り入れられているか考える。 【活動②】 ・ Aについて全員で考える。 ・ B以降について各自で考える。	一斉 個人	4 音楽表現の特徴を捉えさせる。 ○ 「音楽の魅力の3つの観点」を活用しながら、考えを深めさせる。 【教科論5(1)ア a 音楽の魅力の3つの観点を活用】 ・ ワークシート①を活用する。 ・ 例文を参考にすることを伝える。 ・ 各部分を鑑賞させる。 ◆ 知, 思, 態
	15分	5 グループで意見を出し合う。 【活動③】 ・ 3人で確認する。 ・ 互いの考えを確認する。 ・ 出てきた意見を発表する。	グループ	5 互いに意見を確認し、表現の多様性に気付かせる。 ○ 新しい考えや気付きを書き込ませる。 ・ ワークシート②を活用する。 ・ 各部分ごとに確認しながら進める。 ・ 新しい意見については赤ペンで記入させる。 ◆ 態
終末 6分	3分	6 楽曲中に取り入れられている表現について確認する。 楽器の選択や、強弱などの様々な記号で変化をつけることにより、ソネットを表現している。	一斉	6 表現に関する意見を全体で確認し、共有する。 ・ ソネットを演奏で表現する際に用いられる手法が、「音楽の魅力の3つの観点」と繋がっていることを確認し、今後の鑑賞活動における手がかりとできるようにする。 ※ 紹介文作成につなげるために(次時のまとめ) 紹介文でまとめた内容が、その曲の魅力であり、自身が楽曲から受け取った表現内容である。
	3分	7 本時の学習について振り返り、次時の学習について知る。	一斉	7 本時の学習について振り返らせ、次時の予告をする。 ○ 次時は、紹介文を発表し、改めて鑑賞を行い曲の魅力を感じ取ることを知らせる。 ◆ 知, 思

春 -第1楽章- (「和声と創意の試み」第1集「四季」より) ワークシート①

<<学習目標>>

1年()組()番 氏名()

Blank box for student information.

[活動①]自分の考えをまとめていこう!!
映像を見て気づいたこと、感じたことなど

[活動②]ソネットがどのように表現されているのか
活動①で記録した内容や楽譜を見て考えていこう!!

※文章でも箇条書きでも構いません。

※気づいたことをできるだけたくさん書き込んでいきましょう。

A 春がやってきた。<例：明るい，暗い，テンポが速い など>

Blank box for activity 1 response A.

B 小鳥は楽しい歌で，春を歓迎する。

Blank box for activity 1 response B.

C 泉はそよ風に誘われ，ささやき流れていく。

Blank box for activity 1 response C.

D 黒雲と稲妻が空を走り，
雷鳴は春が来たことを告げる。

Blank box for activity 1 response D.

E 嵐がやむと，小鳥はまた歌い始める。

Blank box for activity 1 response E.

F 野原では，草木のささやきを聞きながら，
山羊飼いが犬を傍らに眠る。

※Fは2楽章

G ニンフ（妖精）と牧童たちは，
楽しい笛の音に合わせて春の光の中で踊る。

※Gは3楽章

A <例：○○○によって，春が来たことを表現している。>

B <例：○○○が小鳥を表現している。>

C

D <例：曲が△△△することで□□□を表現している。>

E



○ヒント!! ・例文はどの部分でも活用できます!

- ・楽器は何が使われているかな? ・楽譜に何か記号は付いていないかな?
- ・比較するとどんな変化があるかな? ・演奏者の様子はどうだったな??

【活動③】グループで考えをまとめていこう！！
自分とは異なる考え方や、新しい視点の意見をメモしよう！

【活動④】

「春」の魅力伝える紹介文

☆曲に取り入れられている表現に着目して紹介文を作成しよう！

※この紹介文を見た人が、この曲を聴きたい！！と思うような紹介文を作成しましょう！！

○グループ活動時のポイント

- ・自分と似たような意見と異なる意見を見つけよう。
- ・新しい発見や気づきがないか探してみよう！